

公園改革につながる公園マネジメント試論

蓑茂 寿太郎

【要旨】

本論では、都市公園を対象に、その質の向上についての基本的視座を議論する。そのため、公園改革を支える取り組みの方向を二つの視点で提示する。公園空間の質の向上と管理運営の工夫、すなわち 多様なレクリエーションプログラム開発を含む公園サービスの質の向上である。そして、先行研究や既往の文献等をレビューする中で、この二つの質向上に必要な事項の総体を公園マネジメント、もしくはパークマネジメントと規定できるとし、その体系化について試みの案を提案した。気づいたことの記述レベルではあるが、オペレーションマネジメント、人材マネジメント、市場マネジメント、財務マネジメント、情報マネジメント、戦略マネジメントの6要素で公園マネジメントの体系化は図られる。

【キーワード】

公園改革、公園マネジメント、都市公園、指定管理者制度、公園質の向上、体系化

英国におけるパークトラストに関する基礎的研究（その2）

森本 千尋

嶺岸 さゆり

【要旨】

本稿は、英国におけるパークトラストについて、英国の公園緑地の管理運営の課題から見たその意義に着目し、英国内の各種機関による資料を取りまとめたものである。英国における公園緑地は、その多くが地方自治体により管理運営が行われているが、財政状況に左右され、適正な管理運営が困難な状況にあり、従来にない新たな管理運営のしくみや方法によって、いかに公園緑地の価値を高めていくかの模索が続いていた。この課題への対応策の一つの選択肢として、パークトラストが注目されるようになってきたことを確認した。そして、パークトラストの強み、成功要因について整理し、チャリティ団体の持つ強み（税制優遇や公益目的に限った事業運営等）と、公園緑地を地域の財産として有効に管理運営するという明確な事業目的が地域の参加や共感を招くことができるという強み、そして先行事例の成功に支えられ、有効な選択肢として注目されていることを確認した。

【キーワード】

英国、公園管理、Park Trust、asset transfer、チャリティ、管理財源

国営みちのく杜の湖畔公園における動植物の保全と活用について

平松 玲治 土方 敏彦 石光 成行 菊池 岳信 伊藤 達彦

【要旨】

国営みちのく杜の湖畔公園を対象とした動植物保全・活用の現状について、おもに当公園の「自然共生園」及び「里山地区」の事例をもとに整理し、地域の自然資源の保全・活用に寄与する公園の管理における現状と課題について考察した。その結果、動植物保全・活用の取組みを実施することにより、地域の景観や自然の再生や継承がなされていたこと、自然の魅力や地域性を活かしたプログラムが提供されていたこと、地域と協働による公園運営が行われていたことが改めて確認された。また、今後の課題として保全目標と成果を明確化、保全と活用のバランス、管理作業としての基準（マニュアル）化やそれらを総括した管理システムの構築が挙げられた。

【キーワード】

みちのく杜の湖畔公園, 自然共生園, 里山地区, 公園管理, 希少動植物, 保全, 活用

国営公園におけるスマートフォンアプリケーションの導入について

高橋 悦子

【要旨】

インターネットは、急速に発展した情報通信技術によって、パソコンだけでなく、携帯電話、ゲーム機等でも利用されている。中でも、スマートフォンは移動中も利用できる便利さから、インターネットの閲覧にも多用されている。このような状況を受け、当財団では、国営公園における新たな情報受発信媒体として、スマートフォン用のアプリを制作した。本報告ではアプリの概要を紹介するとともに、ダウンロード数や紙媒体の案内地図と比較したアプリのメリット・デメリットを整理し、考察したものである。その結果、公園利用の多い年代ではスマートフォン普及率が低く、ダウンロード数が伸びない理由の一つとなっていること、類似アプリのダウンロード数から、アプリ周知とアプリ機能の重要性が明らかになった。また、アプリには既存の案内地図に比べて情報量が多いこと、データの修正が簡単であることがメリットである一方で、通信料やランニングコストがかかる、常に最新の情報に入れ替える必要がある、アプリを周知することが必要である等のデメリットがあげられた。今後の課題については、アプリ周知方法、データ更新の省力化、アプリ機能の強化についての検討があげられた。更に、情報の内容、種類によって情報発信ツールを変えたり、紙媒体と電子媒体を併用するなど、適切な情報発信方法を選択する必要があると考えられた。

【キーワード】

公園、モバイル、スマートフォン、アプリ、公園案内、地図、GPS 機能、情報発信

シンガポールにおけるガーデンズ・バイ・ザ・ベイの 設立経緯とその意義

嶺岸 さゆり 平松 玲治

【要旨】

シンガポールにおける緑化政策の変遷および新都心整備を整理し、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイの設立の背景と運営の特徴および課題について考察した。その結果、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイは緑化政策において高く位置づけられていること、国民のニーズに応えた国民が利用しやすい国立庭園であること、シンガポールの中核である新都心の特徴づける施設として組み込まれていること、海外からの観光客を呼ぶ重要な観光資源となっていること、シンガポール特有の気候条件への配慮が確認できた。また、運営面では、収入源の維持・確保が今後の課題と考えられた。

【キーワード】

ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、シンガポール、緑化政策、新都心整備

諸外国の歴史公園の成立過程と歴史的意義に関する考察

青木 明代 堀江 典子 平松 玲治

【要旨】

日本において、歴史公園は、「都市計画運用指針」から、「遺跡、庭園、建築物等の文化的資産を有するまたは復元、展示されている公園」、「歴史的意義を有する公園」と二つの性格を読み取ることができる。本稿では、主に後者の「歴史的意義を有する公園」の歴史的意義について、ヨーロッパ（ドイツ、イギリス等）、米国、オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）における公園の誕生と歴史公園の成立過程を概観し、考察した。

【キーワード】

歴史公園, 公園史, ヨーロッパ, 米国, オセアニア

観光資源としての都市部のオープンスペースに関する考察 —訪日外国人旅行者向けの情報発信の実態について

山口 亜希子

【要旨】

日本政府は観光立国の実現を目指しさまざまな施策に取り組んでいるところである。我が国の都市部のオープンスペースには名所・旧跡が多く含まれ、重要な観光資源として期待できる一方、訪日外国人旅行者により選好されるためにはその魅力を伝える情報発信の工夫が必要である。本稿は、訪日外国人旅行者向けの日本国ガイドブックにおいて取り上げられている都市公園・緑地をはじめとする都市部のオープンスペースの箇所数及び魅力度の評価について整理し、どのような施設が魅力ある観光資源として受け止められているかを把握するとともに、都市部のオープンスペースの施設管理者等がインターネット上で訪日外国人旅行者を対象とした情報発信の実態について調査した。その結果、日本庭園や城などの都市部のオープンスペースが魅力度の高い観光資源として受け止められており、また多くの施設管理者等が外国語によるインターネットを通じた情報発信に取り組んでいる一方、ウェブサイトの多言語化の状況や発信される情報の内容についてはばらつきがあることが確認でき、安定的かつ集約的な情報発信の工夫が必要であることが明らかとなった。

【キーワード】

都市部のオープンスペース、観光資源、情報発信、訪日外国人旅行者、ガイドブック、ホームページ